

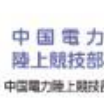


トップスニュース

Vol.100

2017年9月25日

加盟
団体



トップス広島 事務局

〒734-0007

広島市南区皆実町2-8-42
猫田記念体育館1F

TEL:082-254-2012

FAX:082-251-5712

URL:www.tops-h.net/

このQRコードから
公式Webサイトへ
アクセスできます。



おかげさまでトップスニュースは、創刊 100 号を迎えました！

2000年に広島トップススポーツクラブネットワークが発足し今年で18年目を迎えました。これまで多くの諸先輩の方々又、報道各社を初め関係者の皆様のご支援、ご協力により本日記念の100号を発行することになり、深く感謝申し上げます。

「オール広島・オールスポーツ」の実現に向けて、競技種目の枠を超え夢と潤いのある「スポーツ王国ひろしま」の実現と地域の活性化に貢献することにあります。トップスニュースはそうした活動をタイムリーにご紹介し、ご理解を頂くことに主眼を置いております。

スポーツは心の健康の源です。地域の方々と出会いを通して、子供達の健全な心と体の育成にお役に立つ活動を継続して行きたいと思えます。2020年には東京オリ・パラリンピックが開催されます。トップス広島も積極的に成功に向けてお手伝いしたいと思えます。これからもよろしくお願い致します。



トップス広島 会長 河邊捷義

トップス広島結成10周年の2009年4月25日創刊号を発刊して、今回で100号を発行することになりました。

早川文司様、広島経済大学様、安田大学様のご協力の下、トップス広島の活動ぶりを「より広く」「より多くの人に」紹介して参りました。

その甲斐あってか、今は広島県内に留まらず他県にまで広く認知されて多くの方がその活動に共鳴されています。

これからも加盟チームとのコミュニケーションをより一層深め、トップス広島の活動を皆様に紹介して参ります。

我々トップス広島は、スポーツ王国広島の復活を目指して、また、このトップスニュースが200号、300号と継続発刊できるように活動を続けて参りますので、今後とも皆様方の変わらぬご支援をどうぞよろしくお願い致します。



トップス広島 理事長 横山 尚

トップスニュースで迎えるトップス広島の歴史

2009年 トップスニュース創刊(第1号)

トップス広島設立10周年(第5号)

2010年 トップス支援自動販売機設置へ(第21号)

2011年 トップス広島全9クラブ 東日本大震災への街頭募金活動(第24・25号)
広島経済大学・安田女子大学の学生によるトップスニュース作成開始
(第30・31号)

2012年 2011年度 広島市民賞受賞(第35号)

「スポーツ人権教室」広島法務局人権擁護部への派遣協力スタート

2016年 トップス広島リオ五輪出場選手に激励金(第88号)

2017年 猫田記念体育館内へ事務所移転(第97号)

トップスニュース100号創刊



今回は記念号として記事に加え、100号のトップスニュースの中から各チームの思い出深い記事を、紹介します！

37 年ぶり 悲願のセ・リーグ連覇達成！

9月18日（月）に広島東洋カープは阪神甲子園球場にて阪神タイガースに3-2で勝利し、2年連続8度目のセントラル・リーグ優勝を果たした。マジック点灯と消滅を繰り返し、苦しみながらも優勝を果たした。

「神ってる」鈴木誠也選手が怪我で離脱した後、4番に座り絶好調の松山竜平選手が先制打を放てば、先発投手・エース野村祐輔選手がスクイズを決め、リードを広げた。その後追いつかれるも今年支配下登録され、広島県、そして全国にも衝撃を与えたバティスタ選手が決勝打を放った。

そして、9回2死。タイガースの伊藤隼太選手が放った打球は、フラフラッとショート後方に。優勝のウィニングボールをキャッチしたのは今年も、ショート・田中広輔選手だった。

その瞬間、選手、コーチたちはマウンドへ集まり喜びを爆発させた。緒方孝市監督はタオルで顔を覆い、感極まっていた。選手会長・小窪哲也選手、チーム2位の12勝をマークしている岡田明文選手、胃がんを乗り越えた赤松真人選手、そして最後には怪我で戦線離脱したが、4番に座り大きくチームに貢献した鈴木選手が歓喜の輪に加わり、緒方監督を11回胴上げした。指揮官は、「諦めないんですよ、うちの選手は。本当に、本当にご苦労さん！お疲れさん！本当に！頼もしいやつらだ！」と選手を称えた。

去年は、がむしゃらに走り続けての優勝。今年は、優勝チームとしてのプレッシャーとも戦いながらの優勝。ハプニングが続きながらも、チーム全員で勝ち取った優勝だ。

昨年は日本シリーズで北海道日本ハムファイターズに敗れ、最後の最後で涙をのんだ。その悔しさを晴らす時は、もうそこまできている。今年こそ悲願の日本一に向けて、残りの試合も全力で戦う！！



リーグ連覇を果たし、宙に舞う緒方監督

25 年ぶりセ界の頂点！（第90号掲載）

あの日あの時・・・。

2016年9月10日、広島東洋カープが25年ぶり7度目のセ・リーグ優勝を決めた。マジックを1とし、東京ドームで2位のジャイアンツ戦に挑み、6-4で逆転勝利を果たした。優勝は91年以来で、12球団で最も優勝から遠ざかっていた。

今季のカープは、32年ぶりの11連勝を果たすなど一気に頂点まで駆け上がった。

投打の柱となったのは、2人のベテランであった。日米通算200勝を達成した黒田博樹投手、地元・広島県出身で2000安打を達成した新井貴浩選手が、チームを引っ張り続けた。

それにこたえるように、同級生トリオ「タナキクマル」の田中広輔選手、菊池涼介選手、丸佳浩選手や「神ってる」男の鈴木誠也選手など、若手、中堅、ベテランの力が合わさって、つかんだ25年ぶりの頂点であった。

トップスニュース Vol.90
2016年9月25日

広島東洋カープ 25年ぶりセ・リーグ優勝

カープ悲願達成 25年ぶりセ界の頂点



カープが10日、25年ぶり7度目のセ・リーグ優勝を決めた。マジックナンバーとして東京ドームで2位の巨人戦に挑み、今季最大の逆転劇を演じ6-4で勝った。優勝は1991年以来、12球団で最も優勝から遠ざかっていた。

今シーズンのカープの強さは歴史的だった。6月5日に首位に立つ以来、14日からは25年ぶりの11連勝を記録。毎試合勝利とし9月4日にマジック2を叩き壊し、翌5日から優勝を決めるまで12勝2敗という驚異的な強さを見せるなど、一気に頂点まで駆け上がった。

今季のカープは32年ぶりの11連勝を達成した黒田博樹投手を筆頭に、先発ではジャンソン、野村祐輔、中継ぎでは野村、ヘイズ、ジョージ、中継ぎでは新井貴浩選手を擁する。

投手陣では黒田とトリオ「タナキクマル」の田中広輔、菊池涼介、丸佳浩が先発でチームを牽引し、「神ってる」男の鈴木誠也選手が4番に座り、大活躍。打線では鈴木、野村、新井、丸、菊池の5人が活躍。広島県産の選手が揃った。昨年は日本シリーズで北海道日本ハムファイターズに敗れ、最後の最後で涙をのんだ。その悔しさを晴らす時は、もうそこまできている。今年こそ悲願の日本一に向けて、残りの試合も全力で戦う！！

次の目標である32年ぶりの日本一へ、まずはクライマックスシリーズ・ファイナルでの勝利を目指す。

地元で舞った選手たち！4人が全国への切符をゲット！

9月2日（土）～6日（水）に第60回全日本社会人バドミントン選手権大会が広島県立総合体育館で開催された。今年は地元開催ということもあり、たくさんの方が応援に駆け付けた。また、選手もプレーに熱が入りいつものパフォーマンスを見せてくれた。

広島ガスバドミントン部からは、シングルスに小田菜摘選手、喜岡奈美選手、濱北もも選手、下田奈都美選手が出場。小田選手、喜岡選手は2回戦と3回戦で惜しくも敗れたが濱北選手、下田選手はベスト8で入賞した。

ダブルスには亀田・平井組、奥井・濱北組、小田・喜岡組が参加した。奥井・濱北組は4回戦敗退と惜しくもベスト16にはとどきかなかったが、亀田・平井組はベスト16という結果だった。

結果、広島ガスバドミントン部からは濱北もも選手、下田奈都美選手、亀田楓選手、平井亜紀選手が全日本選手権大会の出場権を獲得した。

9月30日（土）～10月1日（日）には島根県松江市の松江市総合体育館で中国地区総合バドミントン選手権大会が行われる。今後の広島ガスバドミントン部に目が離せない。



力強い選手宣誓をする平井主将

あの日あの時・・・。

創部20周年「感謝のタベ」を開催（第73号掲載）

2015年3月26日（木）、バドミントン部創部20周年を記念して市内のホテルで日ごろお世話になっている広島県・市などの関係者約100名を招いて「感謝のタベ」を開催した。胴部は広島アジア大会開催の翌年にあたる1995年3月に創部。96年の広島国体で3位に入った。

ご来賓の方々から祝辞と激励の挨拶をから始まり、その後会場では20年間の歩みを映像と深山前会長のお話で振り返り、創部から積み重ねてきた歴史やエピソードに会場はおおいに盛り上がりを見せた最後に、選手・スタッフ一同が皆様のサポートに対する感謝の意を表すとともに、今後の飛躍を誓った。

そこで2014年の日本リーグ成績は7位（全8チーム）。

当時の主将は「今シーズンこそAクラス入りを」と誓った。



ハンドボールリーグ開幕！

湧永は8月3日（木）～6日（日）まで大同大学体育館にて豊田合成、大同大学と合同合宿を行い、来るべきリーグ戦に備えた。20日には国体予選の順位決定戦に広島県代表として臨み、岡山代表に38-17（19-10、19-7）と大勝した。

そして26日、第42回日本ハンドボールリーグが開幕。湧永は前年度覇者の大崎電気とのアウェー戦で始まった。好スタートを切りたかったが、前半につけられた点差を返すことができず、24-30（8-14、16-16）で敗北となった。2試合目はホーム戦で、昨年1分3敗と苦しめられた大同特殊鋼。東江選手の弟との兄弟対決ともなった試合は、前半26分に逆転し1点差で折り返すと、退場で1人少ない中しのぎ切り、26-24（11-10、15-14）と接戦を物にした。

16日の琉球コラソン戦（中区スポーツセンター）が本拠地開幕戦となる。20年ぶりの優勝を果たすため、全力のプ

あの日あの時・・・。

ヒロシマ国際出場！（第89号掲載）

2016年7月22日から3日間、マエダハウジング東区スポーツセンターで第21回ヒロシマ国際ハンドボール大会が開催された。湧永は、ドイツ帰りの東江太輝選手が活躍。2試合で12得点と高い攻撃力を誇った。また、成田幸平選手も日本代表チームとして安定したプレーを見せ、シーズンへの期待をうかがわせた。

2人とも優秀選手に選ばれ、攻守に大活躍した。

湧永製業

2年連続日本リーグ4強入りを目指している湧永製業の今シーズンにける気迫がこもり、光が指し込む2試合だった。

昨年は故障者続出でメンバー編成にも苦しんだが、徐々に回復。調整試験の意味合いのほか、新人トリオの戦力を試すチャンスでもあった。

目立ったのはドイツ帰りの東江の攻撃力。2試合で12得点とチーム最多をマークした。また、野村も安定したプレーでシーズンへの期待をうかがわせた。成田は日本代表で戦い、攻守に健闘した。

助っ人来日 & 国体中国ブロック大会優勝！

あの日あの時・・・

8月10日(木)、広島市内のホテルにてトーマス・パトリック・エドガー選手が来日し、記者会見が行われた。

記者会見では「いつか日本でプレーしたいと思っていたのでオファーをもらってからすぐ決断した。すべての大会で優勝を目指し、貢献することが目的。持ち味であるサーブ、スパイク、ブロック、そして熱い気持ちで試合を出していきたい。どんな状況でも120%全力を尽くして、ファンの皆さんが誇りに思うような試合を見せる」とコメント。

また、会見に同席したヴェセリン・ヴコヴィッチ監督は「私は彼を常に全力でプレーができる選手だと評価している。1試合で50~60本のアタックを打つスタミナとパワーも必要とされ、責任は大きいですが、それを全うするだけの力が彼にはある。」と期待を寄せた。

また、8月20日(日)に広島県立総合体育館で行われた国民体育大会バレーボール競技中国ブロック大会にて、JTサンダーズから安永拓弥選手、深津旭弘選手、井上俊輔選手、八子大輔選手、安井勇誠選手、井上航選手、ベゼラダシルバサムエルジュニオル選手、塚崎祐平選手、吉岡光大選手、中島健太選手、ロジャーズ海選手、久原大輝選手以上の12人の選手が広島県成年代表として出場。岡山県代表・山口県代表を下し見事、優勝を飾った。

悲願の日本一達成！ (第73号掲載)

2015年4月5日(日)に東京体育館であったバレーボールのプレミアリーグ男子決勝で、JTサンダーズが3-0でサントリーを下し、悲願の初優勝を飾った。第1、第2セットを連取し、迎えた第3セット。24-19とリードし、最後

は越川優選手が相手のレシーブを崩すサーブで決めた。84年分の歓喜が、一気に爆発した瞬間だった。この試合を最後に現役引退を表明していた小澤翔選手ら、多くの力が集まり優勝をつかんだシーズンであった。

チーム史上初！悲願の日本一！



4月5日(日)に東京体育館で行われたバレーボールのプレミアリーグ男子決勝で、JTサンダーズが3-0でサントリーを下し、悲願の初優勝を飾った。

2年連続で決勝に進んだJTサンダーズは、第1セットから大活躍。接戦を連取し、先行したのはJTサンダーズの方だった。18-19の場面から小澤翔選手がレフトスパイクとブロックを駆使して決めたことをきっかけに、20-19と勝ち越し、1点を失った20-20の場面では、黒木勇選手の速攻とヴィット選手の1枚ブロックが決まり、22-20、ブレイクポイントを重ね、わずかながらも接戦から抜け出したかに見えた。

しかしその後、粘る相手に追いつかれ23-23の同点とされると、試合はそのままジョースに突入。わずかながらだが、場内には声援と歓声が上がり続けた。

40点を目前に、JTサンダーズが流れを引き寄せた。越川優選手の鋭いレフトからのスパイクで39点を挙げ、続く場面では小澤翔選手がレフトから強打を打ち込み40-39、ブレイクに成功し、いよいよセットポイントへ。次の場面ではロジャーズからの攻撃を選択。これにJTサンダーズのブロック陣が反応した。ブロックに弾かれたボールを再び相手コートに戻して、そのスパイクはアウトになり、41-39、大歓声の中、JTサンダーズは見事第1セットをもぎ取った。

第2セット、越川選手のサーブミスなどで序盤から5-3と先行。じわじわと相手チームを引き寄せていく。16-10とリードを付けて2回目のテクニカルタイムアウトを迎え、明けでも町野仁志選手や黒木選手らが相手の攻撃に壁となって立ち止まり、相手に流れを渡さない。このセットだけで5本のブロックポイントを取ったJTサンダーズは、25-19で第2セットも連取した。

第3セットもJTサンダーズの勢いはそのまま。10-4とリード拡大。セット終盤、越川選手のサーブは相手コートへ、ミスを経て22-19、続く1本は、コースを突いたサーブミス。さらに次の1本でも相手選手にミスと、この試合を最後に現役を退く小澤翔選手がレフトから決めて24-19とし、マッチポイントを取り取る。アップゾーンの選手たちは、肩を組んでそのときを待った。そして、越川選手は正確な手つきでボールをトス。力強く放たれたサーブは相手レシーバーをばねはじいて相手コートに落ちた。その瞬間、84年分の歓喜が一気に爆発した。

試合後、抱き合ったり喜びを分かち合うもの、男泣きになさる者、笑顔でハイタッチを交わすもの——JTサンダーズにとって、史上最高の形で幕を閉じた「2014/15Vプレミアリーグ」。激戦を勝ち抜き、見事栄光を掴んだ選手たちは、思い思いに『優勝』の喜びを味わった。



サンフレッチェ広島

降格圏内脱出！さらなる高みへ、新戦力も補強！

9月16日(土)にエディオンスタジアムで行われたセレッソ大阪戦を1-0で勝利し、約半年ぶりに残留圏内となる15位に浮上した。70分に途中出場のMF フェリペ シウバ選手がJ1初得点を決め、その後もセレッソ大阪の猛攻を耐えしのぎ、見事勝ち点3をつかんだ。サポーターの声援を背にホームで2勝目を挙げた。第27節清水戦までの5試合は負けなし。さらに勝ち点を積み上げ、J1残留を成し遂げたい。

また、8月17日(木)にはセレッソ大阪から期限付き移籍で棕原健太選手が新加入会見を行った。身長は172cmと小柄だが、サイドバックが手薄なサンフレッチェにとっては、J1残留へ貴重なピースとなるだろう。

あの日あの時・・・

悲願のJ1初優勝！ (第44号掲載)

2012年11月24日(土)、J1第33節セレッソ大阪戦でリーグ、クラブともに20周年の節目の年に悲願の初優勝を成し遂げた。あいにくの雨だったが、サンフレッチェの優勝を信じる3万人を超えるサポーターがビッグアーチに集まった。

試合は前半17分、MF 高萩洋次郎選手が厳しいマークにあいながらも先制点を奪取。この勢いに乗ったサンフレッチェは青山敏弘選手、佐藤寿人選手のゴールで点差を広げると、最後は石川大徳選手が自身Jリーグ初得点となるメモリアルゴールをあげ、試合を決定的なものとし、4-1で勝利した。

この日の試合前にはビッグアーチ周辺に虹がかかり、サンフレッチェの初優勝を後押しした。

試合後、ビッグアーチにはもう一つ、笑顔の「虹」がかかっていた。



サポーターと勝利を分かち合うサンフレッチェの選手

サンフレッチェ広島 悲願のJ1リーグ初優勝！

11月24日 J1第33節セレッソ大阪戦で、リーグ、クラブともに20周年の節目の年に悲願の初優勝を成し遂げた。この日は、あいにくの雨だったが、サンフレッチェの優勝を信じる3万人を超えるサポーターがビッグアーチに集まった。試合は序盤から広島優勢で進んだ。前半17分に厳格なマークされていたMF 高萩洋次郎が先制点を決め、これに乗りかかった広島は、前半20分にMF 佐藤寿人がゴールを決め、点差を広げた。後半10分にMF 石川大徳が4点を決め、試合を決定的なものとした。石川はこのゴールがJリーグ初ゴールとなった。その後、大徳の攻撃を1点に抑え、4-1で勝利した。広島は史上初、J1初優勝を成し遂げた。この瞬間、選手たちは喜びを分かち合い、涙を流した。サポーターも喜びを分かち合い、大きな声援を送った。この瞬間、サンフレッチェはJ1リーグ初優勝を成し遂げた。この瞬間、選手たちは喜びを分かち合い、涙を流した。サポーターも喜びを分かち合い、大きな声援を送った。この瞬間、サンフレッチェはJ1リーグ初優勝を成し遂げた。この瞬間、選手たちは喜びを分かち合い、涙を流した。サポーターも喜びを分かち合い、大きな声援を送った。



ビッグアーチに集まったファンたちと選手たち。サンフレッチェ広島を応援する人々、選手たちと喜びを分かち合った瞬間。

国体出場へ！子どもに夢を与える選手たち！

8月20日(日)、10月に愛媛県で開催される国民体育大会ホッケー競技への出場権をかけ、島根県との決勝戦に挑んだ。前日に行われた岡山県との準決勝戦では16-0と快勝。勢いそのままに決勝戦も、広島県のペースで試合が進み前半10分、加藤彰子選手のシュートのリバウンドを辻井紫歩選手が押し込み先制点をあげる。その後も3点を追加し、前半を4-0で折り返した。

後半も手を緩めず、終了間際には加藤選手の見事なリバースタッチシュートによる得点も飛び出し、終始試合を優勢に進めた広島県が7-0で島根県に勝利。結果、成年女子中国ブロック代表として国民体育大会本大会への出場を決めた。

本大会初戦は準々決勝から出場となる広島県。5連覇のかかった今年は王者の意地を見せ、広島県の期待に応えられるよう一丸となって大会に臨む。

また9月9日(土)には、公益財団法人広島体育協会ならびに広島教育委員会が主催する「スーパージュニア育成プログラム2017」の第3回体験プログラムとしてホッケー教室が開催された。CCWRS ホッケー部がこの体験プログラムで子ども達にホッケー指導を行うのは今年で10回目となる。晴天の下、トライアル(選手選考会)に合格した小学5・6年生、約50名が選手たちと一緒に汗を流した。

様々なスポーツ競技の技術を体験することにより自分の適性にあったスポーツを見つけ、将来に向けて育成のサポートをするのがこのプログラム。よりホッケーを知ってもらい、楽しさを伝えることができたホッケー教室は全員が笑顔で幕を閉じた。今後もこのような活動を通じて、ホッケー競技の普及に取り組んでいく。

悲願の日本リーグ初V！！

2011年11月15日(火)・16日(日)に岐阜県で行われた日本リーグにおいて、CCWRSは創部16年目にして、悲願の初優勝を果たした。

直前のやまぐち国体では、ソニー主体の岐阜県に完敗。この試合も延長戦にまでもつれ込むなど、決して楽な道のりではなかった。

「もう負けたくない」という執念が、チームの結束力を高め、一つにした。



あの日あの時・・・

ハンドボールリーグ開幕！

8月26日(土)に中区スポーツセンターにて、第42回日本ハンドボールリーグの開幕戦が行われた。

開幕戦の相手は三重バイオレットアイリス。前半は両者の攻撃が次々と決まり、28対26でメイプルレッズが逃げ切った。

9月2日(土)、さらに10日(日)には敵地での試合が続く、苦戦を強いられる場面もあったが、ともに接戦を制し、開幕3連勝を果たしている。

また、リーグの合間を縫って、ハンドボール指導にも参加。呉市教育委員会主催の派遣授業として9月6日(水)に呉市波多見小学校に門谷舞選手、板野陽選手、堀川真奈選手の3選手が参加。

翌週の13日(水)には呉市安浦小学校に角屋里帆選手、中村桃子選手、国広紗弥香選手の3選手が、ハンドボール指導に参加。初めてハンドボールを体験する小学生にハンドボールの楽しさを知ってもらって、逆に元気をもらっていた。

これからも厳しい戦いは続くが、このままの勢いで連勝し優勝目指して、そして子どもたちに夢と感動を与えられるような活躍に期待したい。

あの日あの時・・・

7年ぶりの優勝！！

2012年7月4日(水)から8日(日)にかけて、宮城県仙台市で開催された高松宮記念杯第2回全日本社会人選手権大会で、広島メイプルレッズが7年ぶりの優勝を勝ち取った。決勝戦では時間内では決まらず、延長戦に突入。両者ともに譲らず7メートルスローコンテストで堂面妙子選手が3人連続阻止し、優勝を決定づけた。その神業を成し遂げた堂面選手は MVP を獲得。そして、優秀監督賞に呉成玉監督が選ばれた。

また、ベストセブンには広島メイプルレッズから宋海林選手、早川志歩選手、高山智恵選手の3選手が獲得した。

7年ぶりの優勝！！

高松宮記念杯第2回全日本社会人選手権大会



7月4日から8日に仙台市で開催された高松宮記念杯第2回全日本社会人選手権大会で7年ぶりの優勝を勝ち取った。決勝戦では時間内では決まらず、延長戦に突入。お互いに譲らず7メートルスローコンテストで3人連続阻止し、優勝を決定づけた。その神業を成し遂げた堂面妙子選手は MVP を獲得。そして、優秀監督賞に呉成玉監督・ベストセブンには広島メイプルレッズから宋海林選手、早川志歩選手、高山智恵選手が獲得した。
 また、7月20～22日に東区スポーツセンターで開催された第17回七国シニア国際ハンドボール大会で1勝1敗と第2位という結果に終わった。今回はリーグ日本一を奪還すべく猛練習に励んでいる広島メイプルレッズ。ぜひ広島に優勝カップを持ち帰ってもらいたい。

あの日あの時・・・。

長江選手、金3つ獲得！

2013年10月10日(木)から14日(月)に中国の天津で開催された、第6回東アジア競技大会ソフトテニス競技で長江光一選手が3種目に出場し、シングルス：金メダル(男子日本人初)、ミックスダブルス：金メダル(ペア：小林〈早稲田大学〉)、国別対抗戦：金メダル(2年連続)と長江選手が出場した3種目全て金メダルを獲得した。これは、日本ソフトテニス界としても快挙であった。

広島県勢、総合3位！！

10月6日・7日に、第68回国民体育大会が東京都世田谷区立総合運動場庭球場、世田谷区立大蔵第二運動場庭球場で開催された。成年女子の部では、広島から佐々木・大庭ペア、中野・石井ペア、水間・小林ペアが出場した。1回戦目に富山県と戦い、1-2で、まさかの初戦敗退であった。成年男子の部では、広島から村上・原ペア、堀・中本ペア、水澤・長江ペアが出場した。初戦長野県と対戦し、3-0で勝利した。準々決勝では今回2位だった愛媛県と対戦し、1-2で惜しくも敗退した。7日に行われた順位決定戦では、神奈川県と戦い2-0で勝利した。山口県と対戦し2-0で勝利し、5位であった。広島県は総合3位だった。国民体育大会の男子の結果は、優勝は2年連続奈良県、2位愛媛県、3位宮崎県だった。目標であった、総合優勝は成りませんでした。次回の天皇賜杯・皇后賜杯全日本ソフトテニス選手権大会に向け、しっかり取り組み、素晴らしい活躍を期待したい。

長江選手 金メダル3つ獲得！！

10月10日(木)から14日(月)に第6回東アジア競技大会ソフトテニス競技が、中国の天津で開催された。NTT西日本広島から男子の長江光一が3種目に出場した。

【結果】
シングルス：金メダル(男子日本人初)。ミックスダブルス：金メダル(ペア：小林〈早稲田大学〉)。
国別対抗戦：金メダル(2年連続)
長江選手は、出場した3種目全て、金メダルであった。

表彰台を独占！実りの全日本！

9月2日(土)、3日(日)に熊本県総合運動公園で第45回全日本社会人ソフトテニス選手権大会があった。

総勢278ペアが出場したビッグトーナメントで、NTTは表彰台を独占した。

ベスト8に岩崎圭選手、原侑輝選手ペアが入ると、3位には船水雄太選手、林大喜選手ペア。準優勝に水澤悠太選手、村上雄人選手ペアが入り、栄える優勝を手にしたのは、長江光一選手、丸中大明選手ペアであった。

長江、丸中選手ペアは7月に行われた第71回西日本ソフトテニス選手権大会でも優勝しており、改めて実力を示した大会であった。

NTTは8月19日(土)、20日(日)に広島翔洋テニスコート(広島市中央庭球場)で行われた第72回国民体育大会 中国ブロック大会でも1位になっており、愛媛国体の出場権獲得を獲得している。

これから国体、全日本選手権と大会が続くが全て優勝出来るように日々精進するのみに、改めて誓った。

世界陸上、佐藤が6位！(第5号掲載)

2009年8月22日(土)、世界陸上選手権がドイツ・ベルリンで行われ中国電力陸上部の佐藤敦之選手が2時間12分5秒で日本人最高の6位に入賞した。

北京五輪では最下位に沈んだが、この日は後半で意地を見せた。中盤までは14位に落ち込むも、じわりじわりと追走。41キロを過ぎて2人を抜き見事、日本人最高位を獲得した。



あの日
あの
時・・・。

各チームの1推し選手を紹介します。

☆選手紹介コーナー☆



広島東洋カープ 坂倉 将吾選手

生年月日 1998年5月29日
身長 176cm
血液型 A型
出身地 千葉県

↓担当者からのコメント

思い切りのいい打撃で、打てる捕手として将来のカープを支える選手になってほしい。

同期の2人が躍動！

秋冬シーズンに向けて走り込みの合宿が続く中、チーム最年長の2選手が活躍を見せた。第71回中国五県陸上競技対抗選手権大会(鳥取市)に岡本直己選手が5000mに出場し優勝、第18回ひろしまクロスカントリー大会(庄原市)では藤森憲秀選手が8kの部で優勝した。

入社11年目の同期になるふたり。切磋琢磨しながら、オリンピック選手が抜けた世代交代の厳しい状況にあったチームを支えた。歳を重ねるにつれて好不調の波が大きくなり、身体の変化への対応に苦しむ時期があったが、地道に練習を続けてきたことが結果として表れた。これから先も、中電陸上部を支える屋台骨となってもらいたい。



チームを引っ張る岡本選手(左)と藤森選手(右)



ロゴマークの意味

広島県の木、広島県の花として県民になじみの深いモミジをモチーフにしました。「新緑のモミジ」はジュニアスポーツの育成を、「紅葉のモミジ」は選手が成長していく姿を表現しています。ジュニア選手がトップを目標とすることを期待し、広島県のスポーツのジャンプアップを図ることを意味しています。